



第13回 日本運動器疼痛学会 WEB開催

共催セミナー 4

2020年12月2日(水) 19:00~20:10(70分)



## 折田 純久 先生

千葉大学フロンティア医工学センター 教授

平成10年3月31日 東京大学工学部卒業(医用精密工学・工学士)  
平成12年3月31日 東京大学大学院修士課程修了(医用精密工学・工学修士)  
4月 1日 千葉大学医学部 3年次学士編入学  
平成16年4月 1日 千葉大学医学部卒業 医師免許取得、初期研修 関連病院専門研修  
平成22年3月25日 千葉大学大学院博士課程修了(整形外科学・医学博士)  
平成23年4月 1日 カリフォルニア大学サンディエゴ校麻酔科 疼痛基礎医学講座客員研究員  
平成25年4月 1日 千葉大学医学部附属病院材料部助教  
平成27年4月 1日 千葉大学フロンティア医工学センター/大学院整形外科学 助教(兼任)  
平成30年4月 1日 千葉大学大学院医学研究科整形外科学 先端脊椎関節機能再建医学 特任准教授  
令和02年7月 1日 千葉大学フロンティア医工学センター 教授

# 現代における運動器慢性疼痛の 理解と整理 -腰痛診療ガイドライン最新版をひもときながら-

令和元年5月、「腰痛診療ガイドライン2019改訂第2版」が上梓された。本書はMinds診療ガイドライン作成マニュアル2014に準拠し、各々9項目のBackground question (BQ)、Clinical question(CQ)から構成される本書は策定委員によるシステマティックレビューによる客観的なエビデンス解析も織り交ぜ海外のガイドラインを参考にしながら、最終的には本邦における腰痛診療の実情に合致したガイドラインたるべく改訂作業が進められた。

このうち薬物療法に関するCQは、初版との最も大きな違いのひとつである。改訂版では対象病態を急性腰痛、慢性腰痛、さらに坐骨神経痛とし、現在の日常診療で汎用されるものの初版では掲載がかなわなかったCaチャンネル $\alpha 2\delta$ リガンドやセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬などの新規薬剤を含む各種薬剤について、治療効果のみならず副作用の発生など「益と害のバランス」を含む文献的エビデンスをもとに本邦での実地臨床での実情を総合的に勘案、委員の投票により70%以上の同意が得られた場合に推奨薬として採択するなど一貫して公平性と客観性が重視されている。一例を挙げれば、非ステロイド性抗炎症薬は急性腰痛で推奨度1(強い推奨、薬剤選択に対する合意率100%、推奨度に対する合意率100%、以下同)であり、慢性腰痛では推奨度2(弱い推奨、90.9%、75%)、坐骨神経痛に対しては推奨度1(100%、75%)であり、Caチャンネル $\alpha 2\delta$ リガンドは推奨度2(弱い推奨、90.9%、75%、85.7%)等、日常腰痛診療の現状を反映したものであった。

また、初版と同様に慢性腰痛に対する有用性も記載されているが、慢性腰痛と運動器の関連についても、体幹筋量や活動量との関連など、新たな知見も得られている。

本セミナーではガイドライン改訂により得られた新規知見も踏まえながら、慢性腰痛に対する薬物療法および運動療法を中心として関連する最新知見について、疼痛の基礎知識等も踏まえながら概説する。

本セミナーは日本整形外科学会教育研修講演として  
いずれか1単位を取得できます。

必須分野：[7] 脊椎・脊髄疾患  
[8] 神経・筋疾患(末梢神経麻痺を含む)  
教育研修会脊椎脊髄病単位(SS)